

問1 19世紀のイギリス・インド・清の三地域間で行われた貿易において、イギリスからインド、およびインドから清へそれぞれ輸出された品物の組み合わせとして正しい記述を選びなさい。 (2026年 高知公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--------------------------------------|--|--|
| 1. イギリスからインドへは綿織物が輸出され、インドから清へはアヘンが輸出された | 2. イギリスからインドへは茶が輸出され、インドから清へは銀が輸出された | 3. イギリスからインドへはアヘンが輸出され、インドから清へは綿織物が輸出された | 4. イギリスからインドへは絹織物が輸出され、インドから清へは銅が輸出された |
|--|--------------------------------------|--|--|

問2 江戸時代末期、大老の井伊直弼が「安政の大獄」と呼ばれる大規模な弾圧を行った理由と、その結果についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 無勅許での条約調印や將軍継嗣問題への反対派を排除しようとしたが、後に自身が暗殺される一因となった。 | 2. 文明開化による西洋化を推し進めるため、古い慣習を守ろうとする保守的な公家や武士を処罰した。 | 3. 廃藩置県を断行するために、土地や人民を管理していた各地の大名の権力を奪い、抵抗する者を処刑した。 | 4. キリスト教の布教を禁止する幕府の方針に背いた宣教師や信徒を、全国規模で厳しく取り締まった。 |
|--|--|---|--|

問3 19世紀前半の貿易統計によると、アジアから西方へ輸出されるある製品の輸出額は、1810年代の約400万ポンドからわずか20年余りで4分の1以下にまで激減しました。この現象の背景にある歴史的状況と、その後に生じた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. イギリスで産業革命が起こり、安価な機械製綿織物が流入したことでインドの伝統的な手工業が打撃を受け、のちのインド大反乱の一因となった。 | 2. イギリスで名誉革命が起こり、自由貿易が制限されたことでインド産の綿花が余り、現地の農民がイギリス政府に感謝の意を示した。 | 3. イギリスで宗教改革が起こり、贅沢品が禁止されたことでインド産の香辛料の需要が減り、インドの職人が新しい農法を開発した。 | 4. イギリスで農業革命が起こり、本国での綿花栽培に成功したことでインドからの輸入が不要になり、インドの経済的地位が向上した。 |
|---|---|--|---|

問4 19世紀のイギリス・インド・清の三者間で行われた「三角貿易」の構造について、各国の品物の流れを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. イギリスからインドへ綿織物を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を送る仕組み | 2. イギリスから清へ毛織物を送り、清からインドへ茶を送り、インドからイギリスへ綿織物を送る仕組み | 3. イギリスからインドへ銀を送り、インドから清へ綿織物を送り、清からイギリスへアヘンを送る仕組み | 4. イギリスから清へアヘンを送り、清からインドへ茶を送り、インドからイギリスへ銀を送る仕組み |
|---|---|---|---|

問5 幕末に生糸が海外へ大量に輸出されたことは、当時の日本国内の産業にどのような影響を与えましたか。その背景を含めた説明として最も適切なものを選んでください。 (2014年 沖縄公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。 | 2. 海外から安価な生糸が大量に流入したため、国内の養蚕業が衰退し、米の生産への転換が進んだ。 | 3. 生糸の輸出で得た利益が絹織物業に還元されたため、最新の機械が導入されて生産効率が飛躍的に向上した。 | 4. 生糸に代わって茶の輸出が急増したため、絹織物業に代わって製茶業が国内最大の産業となった。 |
|--|---|--|---|

問6 1840年に始まったアヘン戦争において、近代的な軍力を持つイギリスに敗北した清が、1842年に結んだ南京条約の内容として正しいものはどれですか。 (2022年 佐賀公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 上海など五つの港を開港し、香港をイギリスに割譲した | 2. 台湾をイギリスに譲り渡し、多額の賠償金を金で支払った | 3. 北京に外国軍隊の駐留を認め、キリスト教の布教を公認した | 4. 日本に朝鮮の独立を認めさせ、遼東半島を割譲した |
|------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------|

問7 江戸幕府は1825年に、日本近海に接近する外国船を砲撃して追い返す「異国船打払令」を出しましたが、その後、1842年にはこの方針を緩和して燃料や水、食料を与える「薪水給与令」を出しました。このように方針を転換した最大の背景として適切な説明はどれですか。 (2019年 大阪公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---------------------------------------|
| 1. 隣国の清がアヘン戦争でイギリスに大敗したという情報が伝わり、強硬な態度を続けることの危険性を認識したため。 | 2. 大塩平八郎の乱などの国内暴動が鎮圧され、海防に力を割く余裕が生まれたため。 | 3. ペリーが率いるアメリカ艦隊が浦賀に来航し、通商条約の締結を強力に迫ったため。 | 4. ロシアのプチャーチンが長崎に来航し、北方領土の境界確定を求めたため。 |
|--|--|---|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
イギリスからインドへは綿織物が輸出され、インドから清へはアヘンが輸出された
- 産業革命を達成したイギリスは、工場で大量生産した安価な綿織物をインドへ輸出しました。一方で、インドでは清への輸出を目的としたアヘンの生産を拡大させ、これを清へ送りました。この貿易構造により、イギリスは自国の工業製品の市場を確保しつつ、清からの茶の輸入によって生じていた貿易赤字を、インドを介したアヘン貿易による銀の回収という形で解消しようとしていました。
-
- 問2** **答え 1**
無勅許での条約調印や將軍継嗣問題への反対派を排除しようとしたが、後に自身が暗殺される一因となった。
- 井伊直弼は、勅許を得ないまま日米修好通商条約を結んだことや、第14代将軍を徳川慶福に決めたことへの批判を封じるために弾圧を行いました。しかし、この厳しい処置は強い反感を買い、1860年に水戸藩などの元浪士によって井伊が暗殺される桜田門外の変を招くことになりました。
-
- 問3** **答え 1**
イギリスで産業革命が起こり、安価な機械製綿織物が流入したことでインドの伝統的な手工業が打撃を受け、のちのインド大反乱の一因となった。
- 18世紀後半からイギリスで始まった産業革命により、綿織物の大量生産が可能になりました。これにより、それまで世界的な輸出品であったインド産の伝統的な手工業による綿織物は、安価なイギリス製機械製品との競争に敗れて輸出が激減しました。この経済的な困窮はインドの人々のイギリスに対する強い不満へとつながり、1857年に発生したインド大反乱（セポイの乱）の背景の一つとなりました。
-
- 問4** **答え 1**
イギリスからインドへ綿織物を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を送る仕組み
- イギリスは自国の産業革命で生産された綿織物をインドへ輸出し、インドではアヘンを生産させて清へ密輸させました。そして清からイギリスへ茶を輸出させることで、最終的にイギリスから流出した銀が回収されるという循環構造を築いていました。これがアヘン戦争へとつながる国際的な背景となりました。
-
- 問5** **答え 1**
輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。
- 海外での需要が高まり、生糸が大量に輸出された結果、日本国内の市場に出回る生糸が不足しました。これにより生糸の価格が跳ね上がり、原材料を確保できなくなった国内の絹織物業者が苦境に立たされるという経済的な混乱が生じました。
-
- 問6** **答え 1**
上海など五つの港を開港し、香港をイギリスに割譲した
- 南京条約により、清は上海、広東、寧波、福州、廈門（アモイ）の5港を開港させられたほか、イギリスに香港を割譲（領土を譲り渡すこと）しました。また、多額の賠償金を銀で支払うことも義務付けられました。台湾の割譲や朝鮮の独立は、のちの1895年に日本と結んだ下関条約の内容であるため、混同しないよう注意が必要です。
-
- 問7** **答え 1**
隣国の清がアヘン戦争でイギリスに大敗したという情報が伝わり、強硬な態度を続けることの危険性を認識したため。
- 幕府は当初、異国船打払令によって外国船を力づくで排除しようとしていましたが、1840年に始まったアヘン戦争で大国・清がイギリスに敗れたことを知り、大きな衝撃を受けました。強力な軍事力を持つ西洋列強を不用意に刺激すれば日本も同様の事態を招くと判断し、遭難した船には薪や水を与えるという穏和な方針に転換しました。